政府は政策責任果たせ

岡田代議士　衆院予算委で鋭く追及

国内産の石炭の貯炭が増大し、石炭政策の重大性が問われている折りから、岡田利春衆議院議員（炭労政治局員）がこのほど衆議院予算委員会で政府の政策責任をはげしく追及したことが、炭労情報によってもたらされた。

炭労情報によると、二月六日衆議院予算委員会が開かれた席で、炭労政治局員の岡田利春衆議院議員（社会党）は経済問題、石炭対策、雇用問題などで質問に立ち、政府側から出席した大平首相、江崎通産相、栗原労相らの責任を追及した。

限られた時間のために果たせなかった石炭政策に関する具体的な問題については、今後開かれる石炭政策特別委員会で追及することにしたというが、同議員はとりあえず予算委員会で次のように追及した。

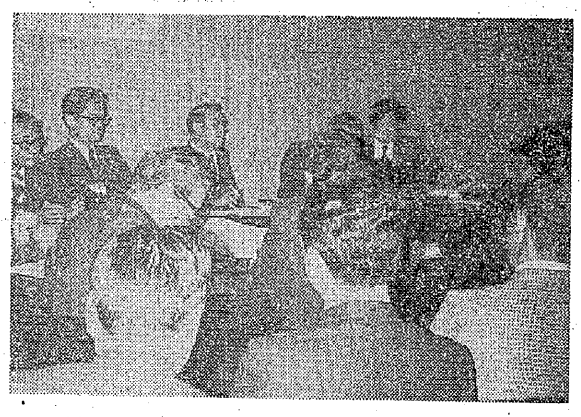
×

中東・イラン情勢による石油の見通しなどから、今後のエネルギー資源を確保するためにも、国内資源である石炭を重要視しなければならない。それが外国（西独・フランスなど）と比べて、日本の石炭政策は弱い。貯炭量は三月末で三百八十万トンも見込まれており、二千万トン体制を維持するためにも憂慮される状況にある。このため、外炭を一時押さえるなど強力な対策を行なう必要がある。安定供給・需要拡大の責任は政府にあるので、政府として石炭政策にもっと責任をもって当るよう。

×

これに対して江崎通産相は「いわれる通り非常に重大な問題なので、五十四年度予算でも引取交付金を増額し、液化・ガス化の研究も促進するようにしている。また、今後三年間の計画について事情聴取を行なっている」など抽象的な答弁を行なった。

（炭鉱情報）



行動団、対政府申入れ

炭労の中央行動団は、２月23日衆議院議員会館で通産省の責任者に対し、「もっと積極的に石炭政策を実行するよう」強く申し入れた。写真は向い側で語っているのが通産省代表の高瀬石炭部長でも積極的姿勢は見られなかったという。

盛大に大牟田革新の会が事務所開き。

統一地方選挙、目前に迫る

革新の会事務所開く

三井から市政奪還めざし

統一地方選挙が目前に迫り、大牟田で、川口六平市長候補の当選を期し、市政を三井の手から市民の手に奪還しようとめざす〝市民のくらしを守る大牟田地区革新の会〟がこのほど事務所を開き、名実ともに活動を開始した。

右の事務所開きは二月二十四日に行われた。所在地は大牟田市本町二丁目五―四で、その日事務所前は、いきおいとんでかけつけた三百人ほどの市民で埋まった。

〝市民のくらしを守る大牟田地区革新の会〟は、すでに早く結成され、川口六平・市長候補を当選させ、長く三井の手ににぎられてきた市政を市民の手に取りもどすことをめざしている。

運営は統一結集体にふさわしく県教組の城之内義観支部長、全日自労大牟田分会の飯尾芳久委員長、日本社会党大牟田総支部の那須俊春書記長の三人の代表委員の手で行われている。

この日川口六平・市長候補は贈られた花束を胸に、「三井の手から、市政をとりもどす絶好機だ。統一こそ勝利の力。決意をもって闘おう」、と語った。

なおつぼぬま候補は、大牟田市助役としてばかりでなく県の総務部長として県政への功績がある。

福岡でも県政奪還を期して……

目前に迫った福岡県知事選挙でつぼぬま寿義候補の当選を期し、亀井光現知事の手から県政奪還をめざす〝県民のくらしを守る革新県政をつくる会〟も、二月十八日福岡市博多区綱場町八―三一に事務所を開き、体制を整えた。河野正・社会党県本部委員長ら四人がその運営に当たっているが、ぜひとも革新県政を実現させたいものである。

県民の生活向上を

県春闘共闘、努力を要請

福岡県県民春闘共闘会議は、三月三日福岡労働基準局や県などに対して、最低賃金や失業・雇用問題などについて数項の要求を提出するが、県民の経済生活上の格差の是正や向上、県の地域としての浮揚などに直接かかわる問題だけに、春闘のなかでさらに重視してその実現をめざす闘いが求められている。

×

要求は①最低賃金、②失業・雇用、③失業者の救済、④地域浮揚に関する問題で、そのおおよその内容は次の通り。

最低賃金について

(1)全国一律最低賃金の法制化を早期に実現するよう、働きかけること。

(2)福岡県地域包括最低賃金は、現行一日二千三百八十一円、時間で三百円を、月に七万七千円、一日三千八十円、時間で四百四十円に引き上げること。

失業・雇用問題について

(1)失業防止について。国が解雇規制法（フランスその他ではすでに制度としてある。編者注）をつくるよう要求するとともに、定年延長、高齢者、身障者の法定雇用率達成の取り組みを強めること。

(2)失業者は仕事の保障。A、教育、福祉、医療などをはじめ、生活に関連する社会資本の充実と雇用機会をふやす長期計画。B、年休の完全取得、過度の時間外労働の規制、週休二日、週四十時間労働制の実現への取り組みを。C、地場中小企業を育成し、雇用を拡大させる公共事業の創出。他省略

失業者生活救済について

(1)失業給付を改善向上させ、全額国の負担で失業手当制度をつくるよう、要求すること。

(2)職業訓練は、失業者に合う課目とし、入校一年一回を二回以上にする努力を。（指導員に、失業中の有資格者を当てること）

地域浮揚のために

(1)高度成長期につくった県政計画をかえ、労働者・住民代表も加えた機関に検討し直すこと。

(2)特定不況地域に、大牟田・直方・山田・豊前各市のほか、久留米と北九州両市を加えること。

九州ブロックが反失業集会

二月二十日午後二時より、北九州の戸畑市民会館音楽ホールにて〝雇用を守り、失業に反対する全国縦断行動、九州ブロック集会〟が行なわれ、三池労組より大月（三川）、上田（四山）、西山（本所）の三名が参加した。

会場には、福岡県内各地評より二百五十名余りが参集し、長崎―佐賀、鹿児島―熊本、宮崎―大分の三コースから行動してきき、ひき続き東京へ向う代表団など五十名を迎え、九州地区の失業・雇用状況、三池合板・佐伯造船の倒産との闘い、国労の首切り合理化との闘い、失業労働者の闘い、雇用創出の闘い等の報告を受け、これ以上の首切りを許さず雇用を拡大することを誓い、〝がんばろう〟を三唱して散会した。

（この項は本所指導部の西山正勝さんの記）

なかま

詩吟を始めて数年。昭和五十一年十月、大牟田吟詠連盟秋の大会（市民館）で吟じたのが初舞台。〝題壁〟で、わずか二分間に全心を打ち込み声高らかに吟じた。「あの日の感動は、一生忘れることのないものです」と。

小学校のとき聞いた詩吟が心に残り、結婚後夫さんの縁者に、のちに大牟田吟詠連盟会長になった人がいたことや、友人の吟詠愛好者にすすめられこの道に入った。

週一回野元楓という西日本吟士権者に教えを受け、夜中に四山堤防の上で波音と声を競ってきたえる。

きたる四月二十九・三十日、久留米市で開かれる西日本吟士権大会にそなえているが、そこでは発音、アクセントの正確さ、それに声量が求められる。高音が出ずあきらめかけたが、同好の志のアドバイスで乗り切った。今では声を出さないと、身体がそれを許さない毎日とのこと。

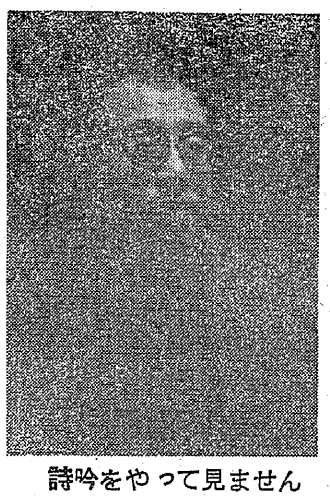
「腹の中から大声を出して、詩吟は健康法に、特に現代病のストレス解消によく、みなさんどうですか」との奨めだった。

吟号は江溪（コウケイ）。昭和五年三月十五日生れで四十九歳。昭和二十一年に入社以来経理一本できた。妻のトシ子（四十三歳）さんとの間に二男あり。ご両親も健在で六人家族。住所は大牟田市四山社宅福社百六十七棟。四十九歳。

男児志を立て郷関を出ず学若し成ら無んば死すとも還らず骨を埋むる豈ただ墳墓の地のみならんや

人間倒る処青山あり

本所指導部　坂本　善之丞



詩吟をやって見ませんか。途中であきらめかけたが、同志にはげまされがんばつています。

御礼

紹介が遅れて申しわけございませんが、一月二十九日のこと故西田正務さんのご遺族――妻の一子さんから、三池の闘いの資金にとカンパをお贈りいただきました。心からお礼申し上げます。

西田さんは昨年十二月四日、三川鉱坑底の職場で仕事中倒れ、十三日身内の皆さんの介護も空しく他界されたのでした。三川指導部ではすぐ組合員に呼びかけて集めた心ばかりのカンパを、ご遺族に贈ってはげましました。

遺族には前記妻の一子さんのほか、高校と中学に通う二人の娘さんがあります。大牟田市長溝社宅三十八棟にお住まいですが、どうかお元気でがんばっていってください。

三池炭鉱労仏組合